

## 津山城本丸の埋没石垣

津山城本丸の埋没石垣はこれまで天守曲輪を中心によくつか見つかっています。

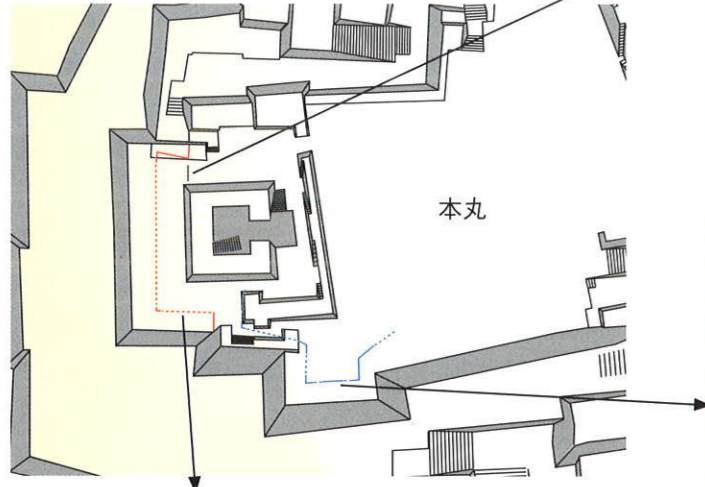
### ①備中櫓内側埋没石垣（青色）

平成10・11年度調査で発見しました。現在の備中櫓の建物の下にあります。

### ②天守台北側埋没石垣（緑色）

平成19年度調査で発見しました。現役の多門櫓石垣と天守台石垣で一部破壊されているようです。

### ③多門櫓内側埋没石垣（赤色）



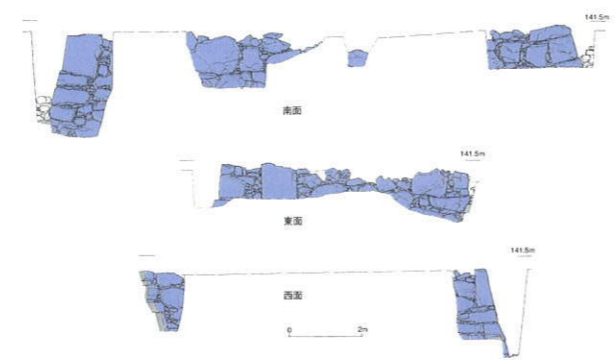
平成11年度～19年度の調査で発見しました。北側で出隅と入隅の2箇所の折れ曲り部分と、南側で一箇所の出隅を確認しています。



天守台北側埋没石垣（西から）



備中櫓埋没石垣南西出隅（南西から）



備中櫓埋没石垣実測図



多門櫓内側埋没石垣南出隅（西から）



多門櫓内側埋没石垣北出隅（北西から）

発行年月日 平成20年3月31日  
 編集・発行 津山市教育委員会  
 津山城整備推進係  
 〒708-0824岡山県津山市沼600-1  
 TEL (0868)24-8413  
 印刷 株式会社廣陽本社

## 多門櫓の遺構表示が完成しました



平成18年度から継続してきた多門櫓の遺構表示工事が一区切りしました。

南面の3間×8間半の多門櫓・南西隅の3間×4間の二重隅櫓・西面の3間×17間の多門櫓・北西隅の3間×4間の二重隅櫓という4棟分の建物の平面表示が完成しました。

いずれの建物の表示も、輪郭を幅5寸（約15cm）の御影石で表し、内部は自然石の樹脂舗装仕上げとしています。

ます。その樹脂舗装は、北西及び南西隅の二重隅部分を平櫓である多門櫓の部分とは若干色調を変えて表示しています。

なお、北西隅櫓から東へ続く多門櫓は幅が2間と狭くなり、高さ50cm程度の腰石垣の上に建てられていました。この腰石垣は明治以降の攪乱や木の根により大きく破損していましたので、今年度に積み直し工事を実施しています。

## 北面多門櫓腰石垣解体修理

前ページでも述べたとおり、天守曲輪の北面多門櫓は低い腰石垣の上に建っていましたが、もともと右写真のように客土や樹木によりその腰石垣の存在すら判然としない状況でした。

その部分を今年度に発掘調査を実施し、腰石垣の基底部まで確認し、石垣の形状変化の原因と思われる木根を撤去した上で積み直し作業を行いました。

下左の2枚が発掘調査後の写真です。木の根によって石が移動し、石垣天端（上面）が凸凹になっており、石が抜け落ちている箇所も見受けられます。また、間詰め石も欠落しており、石と石との間に隙間が空いてそこから内部に充填している栗石が流出していました。

そのため石垣を解体したうえで、石を正しい位置に据え直し、失われている石材は新たに補充し、石と石との間の間詰め石も打ち込み直すという作業を行い、写真下右のように修理をおこないました。

城郭の石垣は伝統的な技術による修復が必要ですので、城郭の石垣の修復を専門にしている石工さんに作業をお願いしました。



修理前（全体）



修理後（全体）



修理前（北面多門櫓部分）



修理後（北面多門櫓部分）



修理前（七番門櫓台）



修理後（七番門櫓台）

## 解体修理中に埋没石垣を発見！

前述の腰石垣修理のために、積石を外したところ、内部に石垣が埋没していることが判明しました（写真右・下）。この石垣は栗石の中に埋没しているため、深いところまでは調査できませんでしたが、少なくとも上から3石以上は存在していることを確認しました。

下の写真の黒の点線が、元々腰石垣のあった範囲です。埋没石垣は七番門櫓台と鋭角に入隅を形成し、わずかに北に振れながら約8m西へ延び、南方向へと鋭角に折れる出隅を形成しています（赤点線）。

このような所見から、この埋没石垣は現況の天守曲輪周辺の石垣とは方向に振れがあるものの、七番門櫓台とは一連の構築と考えられます。つまり、天守曲輪を作るにあたり、まず七番門周辺と埋没石垣を同時に構築し、その後、七番門櫓台は活かした上で新たに北面多門櫓腰石垣を含む外周の石垣を構築したのです。

通常このような石垣の改築は、城主の交代による改築の経過を示すものと理解されているのですが、津山城の築城には森忠政しか関わっていません。にも関わらず、津山城本丸の調査では各所からこのような埋没石垣が発見されています。これはおそらく足かけ13年に及ぶ築



城期間の長さに関連するものと思われる。

森忠政は津山城築城中に幕府からあちこちの城の普請を命じられています。そしてそのたびに津山城の普請を中断し、命じられるままにあちこちで普請を行い、そこで新たな技術を学び取り、その最新の技術を津山城の普請に活かしたものと思われる。

そのために津山城は度重なる設計変更が行われ、本丸の各所に埋没石垣として、設計変更前の石垣が埋められているのではないのでしょうか？ これら埋没石垣をさらに詳細に検討することにより、森忠政の津山城築城過程の研究が進むものと考えます。

